



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

令和6年度

国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
南九州地域施設機能診断調査業務

積 算 書

(当初)

九州農政局
南部九州土地改良調査管理事務所

九州農政局

九州農政局

九州農政局

九州農政局

九州農政局

九州農政局

九州農政局

九州農政局

九州農政局

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	*** S単- 1号 ***					
S63003	機能診断 点的構造 (見積歩掛分)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	5.20人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	13.20人				
	5)技師Bの人数	12.80人				
	6)技師Cの人数	11.80人				
	7)技術員の人数	9.00人				
R04003	主任技師	5.200	人	66,900	347,880	
R04004	技師 (A)	13.200	人	59,600	786,720	
R04005	技師 (B)	12.800	人	48,500	620,800	
R04006	技師 (C)	11.800	人	40,300	475,540	
R04007	技術員	9.000	人	36,100	324,900	
	合 計				2,555,840	算出数量 1.000 式
	単 価		式		2,555,840	
	*** S単- 2号 ***					
S63003	機能診断 電気設備		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	4.82人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	10.68人				
	5)技師Bの人数	12.63人				
	6)技師Cの人数	9.22人				
	7)技術員の人数	3.99人				
R04003	主任技師	4.820	人	66,900	322,458	
R04004	技師 (A)	10.680	人	59,600	636,528	
R04005	技師 (B)	12.630	人	48,500	612,555	
R04006	技師 (C)	9.220	人	40,300	371,566	
R04007	技術員	3.990	人	36,100	144,039	
	合 計				2,087,146	算出数量 1.000 式
	単 価		式		2,087,146	
	*** S単- 3号 ***					
S63003	機能診断 線の構造物 (見積歩掛分)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	8.30人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	19.76人				
	5)技師Bの人数	11.30人				
	6)技師Cの人数	3.39人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師	8.300	人	66,900	555,270	
R04004	技師 (A)	19.760	人	59,600	1,177,696	
R04005	技師 (B)	11.300	人	48,500	548,050	
R04006	技師 (C)	3.390	人	40,300	136,617	
	合 計				2,417,633	算出数量 1.000 式
	単 価		式		2,417,633	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	*** S単 4号 ***					
S63007	移動日業務準備（現地調査）基準日額		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務（直接人件費外業）			時間的制約：なし 夜間制約作業時間：0.0	制約作業時間：0.0 冬期補正：なし	
	1) 主任技術者の人数	0.00 人		豪雪補正：なし	亜熱帯補正：なし	
	2) 技師長の人数	0.00 人		基本給時間：8.0	超勤時間：0.0	
	3) 主任技師の人数	0.50 人		深夜時間：0.0		
	4) 技師 A の人数	0.50 人				
	5) 技師 B の人数	0.50 人				
	6) 技師 C の人数	0.00 人				
	7) 技術員 の人数	0.00 人				
R04003	主任技師 外業	0.500	人	66,900	33,450	
R04004	技師（A） 外業	0.500	人	59,600	29,800	
R04005	技師（B） 外業	0.500	人	48,500	24,250	
	合 計				87,500	算出数量 1.000 式
	単 価		式		87,500	
	*** S単ー 5号 ***					
S63010	打合せ（設計業務基準日額）		回		1.000 回	歩A 当たり算出
	打合せ（設計業務基準日額） 一般工種、着手前・最終、1.00 人、1.00 人、0.00 人、0.00 人、0.5 日、0.55 日			時間的制約：なし 夜間制約作業時間：0.0	制約作業時間：0.0 冬期補正：なし	
	日			豪雪補正：なし 基本給時間：8.0	亜熱帯補正：なし 超勤時間：0.0	
	1) 設計工種	一般工種		深夜時間：0.0		
	2) 打合せ	着手前・最終				
	3) 設計用主任技師人数	1.00 人				
	4) 設計用技師(A)人数	1.00 人				
	5) 設計用技師(B)人数	0.00 人				
	6) 設計用技師(C)人数	0.00 人				
	7) 打合せ日数	0.500 日				
	8) 往復移動日数	0.550 日				
R04003	主任技師	1.050	人	66,900	70,245	
R04004	技師（A）	1.050	人	59,600	62,580	
	合 計				132,825	算出数量 1.000 回
	単 価		回		132,825	
	*** S単ー 6号 ***					
S63010	打合せ（設計業務基準日額）		回		1.000 回	歩A 当たり算出
	打合せ（設計業務基準日額） 一般工種、中間、0.00 人、1.00 人、1.00 人、0.00 人、0.5 日、0.55 日			時間的制約：なし 夜間制約作業時間：0.0	制約作業時間：0.0 冬期補正：なし	
	1) 設計工種	一般工種		豪雪補正：なし	亜熱帯補正：なし	
	2) 打合せ	中間		基本給時間：8.0	超勤時間：0.0	
	3) 設計用主任技師人数	0.00 人		深夜時間：0.0		
	4) 設計用技師(A)人数	1.00 人				
	5) 設計用技師(B)人数	1.00 人				
	6) 設計用技師(C)人数	0.00 人				
	7) 打合せ日数	0.500 日				
	8) 往復移動日数	0.550 日				
R04004	技師（A）	1.050	人	59,600	62,580	
R04005	技師（B）	1.050	人	48,500	50,925	
	合 計				113,505	算出数量 1.000 回
	単 価		回		113,505	
	*** S単 7号 ***					
S63011	打合せ（設計旅費・交通費）		回		1.000 回	歩A 当たり算出
	打合せ（設計旅費・交通費） 一般工種・解析等調査業務、着手前・最終、通勤により打合せ、ライトバン、1日、4時間			時間的制約：なし 夜間制約作業時間：0.0	制約作業時間：0.0 冬期補正：なし	
				豪雪補正：なし 基本給時間：8.0	亜熱帯補正：なし 超勤時間：0.0	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	1)設計工種	一般工種・解析等調査業務		深夜時間:0.0		
	2)打合せ内容	着手前・最終				
	3)主任技師配置人員	1人				
	4)技師A配置人員	1人				
	5)技師B配置人員	0人				
	6)技師C配置人員	0人				
	7)打合せ日数	0.50日				
	8)往復移動日数	0.55日				
	9)宿泊区分	通勤により打合せ				
	10)交通機関区分	ライトバン				
	11)高速道路往復料金(税別)	6,690円				
	12)鉄道往復1人当料金(税別)	0円				
	13)バス往復1人当料金(税別)	0円				
	14)船舶往復1人当料金(税別)	0円				
	15)航空往復1人当料金(税別)	0円				
	16)ライトバン使用日数	1日				
	17)時間区分	4時間				
	18)宿泊料金1人当料金(税別)	0円				
	19)宿泊手当1人当料金(税別)	0円				
P54301	高速道路等料金					
	消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン[カブリオン・二輪駆動]					
	乗車定員5名 排気量1.5L	1.000	日	1,960	1,960	
P34001	ガソリン					
	J I S 2号 レギュラースタンド	10.800	L	163	1,760	
	合 計				10,410	算出数量 1.000 回
	単 価		回		10,410	
	*** S単- 8号 ***					
S63011	打合せ(設計旅費・交通費)		回		1.000 回	歩A 当たり算出
	打合せ(設計旅費・交通費)			時間的制約:なし	制約作業時間:0.0	
	一般工種・解析等調査業務,中間,通勤により打合せ,ライトバン,1日,4時間			夜間制約作業時間:0.0	冬期補正:なし	
				豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
				基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	1)設計工種	一般工種・解析等調査業務		深夜時間:0.0		
	2)打合せ内容	中間				
	3)主任技師配置人員	0人				
	4)技師A配置人員	1人				
	5)技師B配置人員	1人				
	6)技師C配置人員	0人				
	7)打合せ日数	0.50日				
	8)往復移動日数	0.55日				
	9)宿泊区分	通勤により打合せ				
	10)交通機関区分	ライトバン				
	11)高速道路往復料金(税別)	6,690円				
	12)鉄道往復1人当料金(税別)	0円				
	13)バス往復1人当料金(税別)	0円				
	14)船舶往復1人当料金(税別)	0円				
	15)航空往復1人当料金(税別)	0円				
	16)ライトバン使用日数	1日				
	17)時間区分	4時間				
	18)宿泊料金1人当料金(税別)	0円				
	19)宿泊手当1人当料金(税別)	0円				
P54301	高速道路等料金					
	消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン[カブリオン・二輪駆動]					
	乗車定員5名 排気量1.5L	1.000	日	1,960	1,960	
P34001	ガソリン					
	J I S 2号 レギュラースタンド	10.800	L	163	1,760	
	合 計				10,410	算出数量 1.000 回
	単 価		回		10,410	
	*** S単- 9号 ***					
S63017	旅費交通費(現地調査)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	旅費交通費(設計外業宿泊用)			時間的制約:なし	制約作業時間:0.0	
	ライトバン,0.50日,2日,3時間			夜間制約作業時間:0.0	冬期補正:なし	
	1)交通機関区分	ライトバン		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)高速道路往復料金(税別)	6,690円		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)鉄道往復料金[全員分合算(税別)]	0円		深夜時間:0.0		
	4)バス往復料金[全員分合算(税別)]	0円				
	5)船舶往復料金[全員分合算(税別)]	0円				
	6)航空往復料金[全員分合算(税別)]	0円				
	7)往復移動日数	0.50日				
	8)ライトバン使用日数	2日				

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業				
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務				

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	9)時間区分	3時間				
	10)技師長外業日数	0.000日				
	11)主任技師外業日数	2.980日				
	12)技師A外業日数	4.180日				
	13)技師B外業日数	3.780日				
	14)技師C外業日数	0.000日				
	15)技術員外業日数	0.000日				
	16)宿泊料金1人当料金(税別)	0円				
	17)宿泊手当1人当料金(税別)	0円				
P54301	高速道路等料金					
	消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン[カワサキエンジン・二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	2.000	日	1,960	3,920	
P34001	ガソリン J I S 2 号 レギュラースタンド	16.200	L	163	2,641	
	合 計				13,251	算出数量 1.000 式
	単 価		式		13,251	
	*** S単一 10号 ***					
S63023	電子納品版業務報告書作成		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	電子納品版業務報告書作成 1, A - 4, 500, 5cm, 0			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)報告書部数(部)	1.000		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)規格区分	A - 4		深夜時間:0.0		
	3)枚数区分(枚)	500				
	4)厚さ区分	5cm				
	5)CD-R枚数(枚)	0.000				
P43422	報告書焼付代(コピー) A 4以下 500枚	1.000	部	6,750	6,750	
P43542	簡易加除式ファイル A 4縦型幅5cm(チューブ・パイプファイル)	1.000	冊	591	591	
P43602	C D R C D R(記録面色素フタロシアニン)700MB	0.000	枚	47	0	
	合 計				7,341	算出数量 1.000 式
	単 価		式		7,341	
	*** S単 11号 ***					
S65501	機能診断 線の構造物(標準歩掛分)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	機能診断 線の構造物 9.160km, バイブライン			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)設計対象延長	9.160km		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)対象工種	バイブライン		深夜時間:0.0		
	3)1.業務準備	計上する				
	4)2-1.事前調査資料調査	計上する				
	5)2-2.事前調査問診調査	計上する				
	6)3.施設機能の検討	計上する				
	7)4.施設の影響度評価	計上しない				
	8)5.性能低下要因の推定	計上する				
	11)10.健全度評価	計上する				
	12)11.性能低下予測	計上する				
	14)13.機能保全対策の検討	計上する				
	15)14.機能保全コストの算定	計上する				
	16)15.機能保全計画の策定	計上する				
	17)16.農業水利ストック情報データ入力・登録	計上する				
	18)17.点検取りまとめ	計上しない				
	19)1個別補正業務準備	1.00				
	20)2-1個別補正資料調査	1.00				
	21)2 2個別補正問診調査	1.00				
	22)3個別補正施設機能の検討	1.00				
	23)4個別補正施設の影響度評価	1.00				
	24)5個別補正性能低下要因の推定	1.00				
	25)6個別補正水利・水理機能検討	1.00				
	26)9個別補正詳細調査計画立案	1.00				
	27)10個別補正健全度評価	1.00				
	28)11個別補正性能低下予測	1.00				
	29)12個別補正管理水準の設定	1.00				
	30)13個別補正機能保全対策の検討	1.00				
	31)14個別補正機能保全コストの算定	1.00				
	32)15個別補正機能保全計画の策定	1.00				
	33)16個別補正ストック情報データ入力・登録	1.00				
	34)17個別補正点検取りまとめ	1.00				
R04003	主任技師 内業	8.580	人	66,900	574,002	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
R04004	技師 (A)					
	内業	21.530	人	59,600	1,283,188	
R04005	技師 (B)					
	内業	23.530	人	48,500	1,141,205	
R04006	技師 (C)					
	内業	13.390	人	40,300	539,617	
	合 計				3,538,012	算出数量 1.000 式
	単 価		式		3,538,012	
	*** S単ー 12号 ***					
S65502	機能診断 点的構造物 (標準歩掛分)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	機能診断 点的構造物 2箇所、機場			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)設計対象施設数 2)対象工種	2箇所 機場		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	3)1.業務準備 4)2-1.事前調査資料調査	計上する 計上する		深夜時間:0.0		
	5)2.2.事前調査問診調査 6)3.施設機能の検討	計上する 計上する				
	7)5.性能低下要因の推定 8)10.健全度評価	計上する 計上する				
	9)11.性能低下予測 10)12.管理水準の設定	計上する 計上する				
	11)13.機能保全対策の検討 12)15.機能保全計画の策定	計上する 計上する				
	13)16.農業水利ストック情報データ入力・登録 14)17.点検取りまとめ	計上する 計上しない				
	15)1個別補正業務準備 16)2-1個別補正資料調査	1.00 1.00				
	17)2.2個別補正問診調査 18)3個別補正施設機能の検討	1.00 1.00				
	19)5個別補正性能低下要因の推定 20)10個別補正健全度評価	1.00 1.00				
	21)11個別補正性能低下予測 22)12個別補正管理水準の設定	1.00 1.00				
	23)13個別補正機能保全対策の検討 24)15個別補正機能保全計画の策定	1.00 1.00				
	25)16個別補正ストック情報データ入力・登録 26)17個別補正点検取りまとめ	1.00 1.00				
R04003	主任技師					
	内業	4.670	人	66,900	312,423	
R04004	技師 (A)					
	内業	11.240	人	59,600	669,904	
R04005	技師 (B)					
	内業	15.640	人	48,500	758,540	
R04006	技師 (C)					
	内業	7.580	人	40,300	305,474	
R04007	技術員					
	内業	3.540	人	36,100	127,794	
	合 計				2,174,135	算出数量 1.000 式
	単 価		式		2,174,135	
	*** S単ー 13号 ***					
S65902	機能診断 ポンプ設備		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	機能診断 (用排水ポンプ) 計上する,計上する,計上しない,計上する,計上する,計上する,計上する,計上する,計上する			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
				豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)ポンプ形式区分 2)対象施設数	横軸 4.000台		深夜時間:0.0		
	3)事前調査 4)概略診断評価	計上する 計上する				
	5)詳細診断評価 (簡易内部診断) 6)性能低下予測	計上しない 計上する				
	7)機能保全対策の検討 8)対策実施シナリオの作成	計上する 計上する				
	9)機能保全コストの算定 10)機能保全計画の策定	計上する 計上する				
	11)農業水利ストック情報データの作成 12)点検取りまとめ	計上する 計上する				
R04003	主任技師					
	内業	2.700	人	66,900	180,630	
R04004	技師 (A)					
	内業	7.900	人	59,600	470,840	
R04005	技師 (B)					
	内業	9.200	人	48,500	446,200	

九州農政局

九州農政局

九州農政局

九州農政局

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

[illegible]

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

名 称 (規 格)	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
直接人件費～機械経費				5,056,000	
・直接人件費～機械経費	1.000	式		5,056,000	
・ ・ 直接人件費～機械経費	1.000	式		5,056,000	
・ ・ ・ 直接人件費～機械経費 原別府揚水機場（建屋）	1.000	式	232,000	232,000	1 式当たり
S65001 現地踏査 点的構造物	1.000	施設	64,452	64,452	歩A・単A S単 14号
S65002 近接目視 点的構造物, 219㎡	1.000	式	100,982	100,982	歩A・単A S単 15号
S65003 コンクリート強度推定調査	4.000	測点	4,202	16,808	歩A・単A S単 19号
S65004 鉄筋調査	4.000	箇所	3,973	15,892	歩A・単A S単 20号
S65009 中性化深さ試験(ドリル法)	4.000	箇所	8,510	34,040	歩A・単A S単 21号
合 計				232,174	
・ ・ ・ 直接人件費～機械経費 原別府揚水機場（ポンプ設備）	1.000	式	358,000	358,000	1 式当たり
S65402 現地踏査及び診断調査（用排水ポンプ） 横軸, 2台, 計上する, 計上する	1.000	式	358,250	358,250	歩A・単A S単 22号
合 計				358,250	
・ ・ ・ 直接人件費～機械経費 原別府揚水機場（電気設備）	1.000	式	602,000	602,000	1 式当たり
T00003 現地調査（電気設備）	1.000	式	601,732	601,732	歩A・単A T単 3号
合 計				601,732	
・ ・ ・ 直接人件費～機械経費 永吉原揚水機場（建屋）	1.000	式	220,000	220,000	1 式当たり
S65001 現地踏査 点的構造物	1.000	施設	64,452	64,452	歩A・単A S単 14号
S65002 近接目視 点的構造物, 70㎡	1.000	式	89,179	89,179	歩A・単A S単 16号
S65003 コンクリート強度推定調査	4.000	測点	4,202	16,808	歩A・単A S単 19号
S65004 鉄筋調査	4.000	箇所	3,973	15,892	歩A・単A S単 20号
S65009 中性化深さ試験(ドリル法)	4.000	箇所	8,510	34,040	歩A・単A S単 21号
合 計				220,371	
・ ・ ・ 直接人件費～機械経費 永吉原揚水機場（ポンプ設備）	1.000	式	358,000	358,000	1 式当たり
S65402 現地踏査及び診断調査（用排水ポンプ） 横軸, 2台, 計上する, 計上する	1.000	式	358,250	358,250	歩A・単A S単 22号
合 計				358,250	
・ ・ ・ 直接人件費～機械経費 永吉原揚水機場（電気設備）	1.000	式	555,000	555,000	1 式当たり
T00005 現地調査（電気設備） 永吉原揚水機場	1.000	式	555,375	555,375	歩A・単A T単 5号
合 計				555,375	
・ ・ ・ 直接人件費～機械経費 野方支線水路	1.000	式	1,618,000	1,618,000	1 式当たり
T00001 現地踏査（パイプライン）	5.104	km	41,264	210,611	歩A・単A T単 1号
T00002 概略診断調査 （バルブ類）	28.000	箇所	42,853	1,199,884	歩A・単A T単 2号
S65002 近接目視 線の構造物, 199㎡	1.000	式	107,539	107,539	歩A・単A S単 17号
S65003 コンクリート強度推定調査	6.000	測点	4,202	25,212	歩A・単A S単 19号
S65004 鉄筋調査	6.000	箇所	3,973	23,838	歩A・単A S単 20号
S65009 中性化深さ試験(ドリル法)	6.000	箇所	8,510	51,060	歩A・単A S単 21号
合 計				1,618,144	

九州農政局

九州農政局

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称 (規 格)	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
S63003	*** S単ー 1号 *** 現地調査 (電気設備)					
	設計労務 (直接人件費内業)		式	601,732		歩A・単A
S63003	*** S単ー 2号 *** 現地調査 (電気設備)					
	設計労務 (直接人件費内業)		式	555,375		歩A・単A
S63007	*** S単ー 3号 *** 設計労務 (直接人件費外業)					
	設計労務 (直接人件費外業)		式	403,760		歩A・単A
S63007	*** S単ー 4号 *** 設計労務 (直接人件費外業)					
	設計労務 (直接人件費外業)		式	34,840		歩A・単A
S63007	*** S単ー 5号 *** 設計労務 (直接人件費外業)					
	設計労務 (直接人件費外業)		式	69,930		歩A・単A
S63007	*** S単ー 6号 *** ポンプ場・ポンプ設備・電気設備 (現地踏査) 基準日額					
	設計労務 (直接人件費外業)		式	87,500		歩A・単A
S63007	*** S単ー 7号 *** ポンプ場・ポンプ設備・電気設備 (近接調査等) 基準日額					
	設計労務 (直接人件費外業)		式	92,250		歩A・単A
S63007	*** S単ー 8号 *** ハイクライン (現地踏査) 基準日額					
	設計労務 (直接人件費外業)		式	72,100		歩A・単A
S63007	*** S単ー 9号 *** ハイクライン (近接調査等) 基準日額					
	設計労務 (直接人件費外業)		式	92,250		歩A・単A
S63017	*** S単ー 10号 *** ポンプ場・ポンプ設備・電気設備 (現地踏査)					
	旅費交通費 (設計外業宿泊用) ライトバン, 0.50日, 2日, 3時間		式	13,251		歩A・単A
S63017	*** S単ー 11号 *** ポンプ場・ポンプ設備・電気設備 (近接調査等)					
	旅費交通費 (設計外業宿泊用) ライトバン, 0.50日, 2日, 3時間		式	13,251		歩A・単A
S63017	*** S単ー 12号 *** ハイクライン (現地調査)					
	旅費交通費 (設計外業宿泊用) ライトバン, 0.50日, 2日, 3時間		式	13,251		歩A・単A
S63017	*** S単ー 13号 *** ハイクライン (近接調査等)					
	旅費交通費 (設計外業宿泊用) ライトバン, 0.50日, 2日, 3時間		式	13,251		歩A・単A
S65001	*** S単ー 14号 *** 現地踏査					
	現地踏査 点的構造物		施設	64,452		歩A・単A
S65002	*** S単ー 15号 *** 近接目視					
	近接目視 点的構造物, 219㎡		式	100,982		歩A・単A
S65002	*** S単ー 16号 *** 近接目視					
	近接目視 点的構造物, 70㎡		式	89,179		歩A・単A
S65002	*** S単ー 17号 *** 近接目視					
	近接目視 線の構造物, 199㎡		式	107,539		歩A・単A
S65002	*** S単ー 18号 *** 近接目視					
	近接目視 線の構造物, 94㎡		式	98,359		歩A・単A
S65003	*** S単ー 19号 *** コンクリート強度推定調査					
	コンクリート強度推定調査		測点	4,202		歩A・単A
S65004	*** S単ー 20号 *** 鉄筋調査					
	鉄筋調査		箇所	3,973		歩A・単A
S65009	*** S単ー 21号 *** 中性化深さ試験 (ドリル法)					
	中性化深さ試験 (ドリル法)		箇所	8,510		歩A・単A
S65402	*** S単ー 22号 *** 現地踏査及び診断調査 (用排水ポンプ)					

九州農政局

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業				
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務				

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	*** S単- 1号 ***					
S63003	現地調査（電気設備）		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.96人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	5.08人				
	5)技師Bの人数	4.84人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師	0.960	人	66,900	64,224	
R04004	技師（A）	5.080	人	59,600	302,768	
R04005	技師（B）	4.840	人	48,500	234,740	
	合 計				601,732	算出数量 1,000 式
	単 価		式		601,732	
	*** S単- 2号 ***					
S63003	現地調査（電気設備）		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.89人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	4.69人				
	5)技師Bの人数	4.46人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師	0.890	人	66,900	59,541	
R04004	技師（A）	4.690	人	59,600	279,524	
R04005	技師（B）	4.460	人	48,500	216,310	
	合 計				555,375	算出数量 1,000 式
	単 価		式		555,375	
	*** S単- 3号 ***					
S63007	設計労務(直接人件費外業)		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	2.80人				
	5)技師Bの人数	2.80人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	2.80人				
R04004	技師（A） 外業	2.800	人	59,600	166,880	
R04005	技師（B） 外業	2.800	人	48,500	135,800	
R04007	技術員 外業	2.800	人	36,100	101,080	
	合 計				403,760	算出数量 1,000 式
	単 価		式		403,760	
	*** S単 4号 ***					
S63007	設計労務(直接人件費外業)		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.20人				
	5)技師Bの人数	0.00人				
	6)技師Cの人数	0.30人				
	7)技術員の人数	0.30人				
R04004	技師 (A) 外業	0.200	人	59,600	11,920	
R04006	技師 (C) 外業	0.300	人	40,300	12,090	
R04007	技術員 外業	0.300	人	36,100	10,830	
	合 計				34,840	算出数量 1.000 式
	単 価		式		34,840	
	*** S単- 5号 ***					
S63007	設計労務(直接人件費外業)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)技師長の人数	0.00人				
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.70人				
	5)技師Bの人数	0.00人				
	6)技師Cの人数	0.70人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04004	技師 (A) 外業	0.700	人	59,600	41,720	
R04006	技師 (C) 外業	0.700	人	40,300	28,210	
	合 計				69,930	算出数量 1.000 式
	単 価		式		69,930	
	*** S単 6号 ***					
S63007	ポンプ場・ポンプ設備・電気設備(現地踏査)基準日額		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)技師長の人数	0.00人				
	3)主任技師の人数	0.50人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.50人				
	5)技師Bの人数	0.50人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師 外業	0.500	人	66,900	33,450	
R04004	技師 (A) 外業	0.500	人	59,600	29,800	
R04005	技師 (B) 外業	0.500	人	48,500	24,250	
	合 計				87,500	算出数量 1.000 式
	単 価		式		87,500	
	*** S単 7号 ***					
S63007	ポンプ場・ポンプ設備・電気設備(近接調査等)基準日額		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)技師長の人数	0.00人				
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.50人				
	5)技師Bの人数	0.50人				
	6)技師Cの人数	0.50人				
	7)技術員の人数	0.50人				
R04004	技師 (A) 外業	0.500	人	59,600	29,800	
R04005	技師 (B) 外業	0.500	人	48,500	24,250	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
R04006	技師 (C) 外業	0.500	人	40,300	20,150	
R04007	技術員 外業	0.500	人	36,100	18,050	
	合 計				92,250	算出数量 1.000 式
	単 価		式		92,250	
	*** S単 8号 ***					
S63007	パイプライン (現地踏査) 基準日額 設計労務 (直接人件費外業)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	1) 主任技術者の人数 2) 技師長の人数	0.00人 0.00人		時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0 豪雪補正: なし 基本給時間: 8.0	制約作業時間: 0.0 冬期補正: なし 亜熱帯補正: なし 超勤時間: 0.0	
	3) 主任技師の人数 4) 技師Aの人数	0.00人 0.50人		深夜時間: 0.0		
	5) 技師Bの人数 6) 技師Cの人数	0.50人 0.00人				
	7) 技術員の数	0.50人				
R04004	技師 (A) 外業	0.500	人	59,600	29,800	
R04005	技師 (B) 外業	0.500	人	48,500	24,250	
R04007	技術員 外業	0.500	人	36,100	18,050	
	合 計				72,100	算出数量 1.000 式
	単 価		式		72,100	
	*** S単 9号 ***					
S63007	パイプライン (近接調査等) 基準日額 設計労務 (直接人件費外業)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	1) 主任技術者の人数 2) 技師長の人数	0.00人 0.00人		時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0 豪雪補正: なし 基本給時間: 8.0	制約作業時間: 0.0 冬期補正: なし 亜熱帯補正: なし 超勤時間: 0.0	
	3) 主任技師の人数 4) 技師Aの人数	0.00人 0.50人		深夜時間: 0.0		
	5) 技師Bの人数 6) 技師Cの人数	0.50人 0.50人				
	7) 技術員の数	0.50人				
R04004	技師 (A) 外業	0.500	人	59,600	29,800	
R04005	技師 (B) 外業	0.500	人	48,500	24,250	
R04006	技師 (C) 外業	0.500	人	40,300	20,150	
R04007	技術員 外業	0.500	人	36,100	18,050	
	合 計				92,250	算出数量 1.000 式
	単 価		式		92,250	
	*** S単 10号 ***					
S63017	ポンプ場・ポンプ設備・電気設備 (現地踏査) 旅費交通費 (設計外業宿泊用) ライトバン, 0.50日, 2日, 3時間		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	1) 交通機関区分 2) 高速道路往復料金 (税別)	ライトバン 6,690円		時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0 豪雪補正: なし 基本給時間: 8.0	制約作業時間: 0.0 冬期補正: なし 亜熱帯補正: なし 超勤時間: 0.0	
	3) 鉄道往復料金 [全員分合算] (税別) 4) バス往復料金 [全員分合算] (税別)	0円 0円		深夜時間: 0.0		
	5) 船舶往復料金 [全員分合算] (税別) 6) 航空往復料金 [全員分合算] (税別)	0円 0円				
	7) 往復移動日数 8) ライトバン使用日数	0.50日 2日				
	9) 時間区分 10) 技師長外業日数	3時間 0.000日				
	11) 主任技師外業日数 12) 技師A外業日数	3.850日 5.070日				
	13) 技師B外業日数 14) 技師C外業日数	1.600日 0.000日				
	15) 技術員外業日数 16) 宿泊料金 1人当料金 (税別)	0.000日 0円				

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業				
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務				

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	17) 宿泊手当 1 人当料金 (税別)	0円				
P54301	高速道路等料金 消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン ガソリンエンジン・二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	2.000	日	1,960	3,920	
P34001	ガソリン J I S 2 号 レギュラースタンド	16.200	L	163	2,641	
	合 計				13,251	算出数量 1.000 式
	単 価		式		13,251	
	*** S 単 - 11 号 ***					
S63017	ポンプ場・ソフ 設備・電気設備 (近接調査等)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	旅費交通費 (設計外業宿泊用) ライトバン, 0.50 日, 2 日, 3 時間			時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	制約作業時間: 0.0 冬期補正: なし	
	1) 交通機関区分 2) 高速道路往復料金 (税別)	ライトバン 6,690 円		豪雪補正: なし 基本給時間: 8.0	亜熱帯補正: なし 超勤時間: 0.0	
	3) 鉄道往復料金 [全員分合算] (税別)	0 円		深夜時間: 0.0		
	4) バス往復料金 [全員分合算] (税別)	0 円				
	5) 船舶往復料金 [全員分合算] (税別)	0 円				
	6) 航空往復料金 [全員分合算] (税別)	0 円				
	7) 往復移動日数	0.50 日				
	8) ライトバン使用日数	2 日				
	9) 時間区分	3 時間				
	10) 技師長外業日数	0.000 日				
	11) 主任技師外業日数	0.000 日				
	12) 技師 A 外業日数	13.820 日				
	13) 技師 B 外業日数	17.800 日				
	14) 技師 C 外業日数	3.480 日				
	15) 技術員外業日数	2.810 日				
	16) 宿泊料金 1 人当料金 (税別)	0 円				
	17) 宿泊手当 1 人当料金 (税別)	0 円				
P54301	高速道路等料金 消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン ガソリンエンジン・二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	2.000	日	1,960	3,920	
P34001	ガソリン J I S 2 号 レギュラースタンド	16.200	L	163	2,641	
	合 計				13,251	算出数量 1.000 式
	単 価		式		13,251	
	*** S 単 - 12 号 ***					
S63017	パイプライン (現地調査)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	旅費交通費 (設計外業宿泊用) ライトバン, 0.50 日, 2 日, 3 時間			時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	制約作業時間: 0.0 冬期補正: なし	
	1) 交通機関区分 2) 高速道路往復料金 (税別)	ライトバン 6,690 円		豪雪補正: なし 基本給時間: 8.0	亜熱帯補正: なし 超勤時間: 0.0	
	3) 鉄道往復料金 [全員分合算] (税別)	0 円		深夜時間: 0.0		
	4) バス往復料金 [全員分合算] (税別)	0 円				
	5) 船舶往復料金 [全員分合算] (税別)	0 円				
	6) 航空往復料金 [全員分合算] (税別)	0 円				
	7) 往復移動日数	0.50 日				
	8) ライトバン使用日数	2 日				
	9) 時間区分	3 時間				
	10) 技師長外業日数	0.000 日				
	11) 主任技師外業日数	0.000 日				
	12) 技師 A 外業日数	2.560 日				
	13) 技師 B 外業日数	2.560 日				
	14) 技師 C 外業日数	0.000 日				
	15) 技術員外業日数	2.560 日				
	16) 宿泊料金 1 人当料金 (税別)	0 円				
	17) 宿泊手当 1 人当料金 (税別)	0 円				
P54301	高速道路等料金 消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン ガソリンエンジン・二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	2.000	日	1,960	3,920	
P34001	ガソリン J I S 2 号 レギュラースタンド	16.200	L	163	2,641	
	合 計				13,251	算出数量 1.000 式
	単 価		式		13,251	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	*** S単一 13号 ***					
S63017	バ イ ン (近接調査等)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	旅費交通費 (設計外業宿泊用) ライトバン,0.50日,2日,3時間			時間の制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)交通機関区分	ライトバン		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)高速道路往復料金 (税別)	6,690円		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)鉄道往復料金[全員分合算] (税別)	0円		深夜時間:0.0		
	4)バス往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	5)船舶往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	6)航空往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	7)往復移動日数	0.50日				
	8)ライトバン使用日数	2日				
	9)時間区分	3時間				
	10)技師長外業日数	0.000日				
	11)主任技師外業日数	0.000日				
	12)技師A外業日数	8.100日				
	13)技師B外業日数	2.240日				
	14)技師C外業日数	14.760日				
	15)技術員外業日数	13.390日				
	16)宿泊料金1人当料金 (税別)	0円				
	17)宿泊手当1人当料金 (税別)	0円				
P54301	高速道路等料金					
	消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン[ガソリンエンジン・二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	2.000	日	1,960	3,920	
P34001	ガソリン J I S 2号 レギュラースタンド	16.200	L	163	2,641	
	合 計				13,251	算出数量 1.000 式
	単 価		式		13,251	
	*** S単一 14号 ***					
S65001	現地踏査		施設		1.000 日	歩A 当たり算出
	現地踏査 点的構造物			時間の制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)対象構造物	点的構造物		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
				深夜時間:0.0		
R04003	主任技師 外業	1.000	人	66,900	66,900	
R04004	技師 (A) 外業	1.000	人	59,600	59,600	
Y00004	機械経費	0.015		126,500	1,898	
Y00004	材料費	0.004		126,500	506	
	合 計				128,904	算出数量 2.000 [各単位]
	単 価		[各単位]		64,452	
Y00001	単位					
	*** S単一 15号 ***					
S65002	近接目視		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	近接目視 点的構造物,219㎡			時間の制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)対象構造物	点的構造物		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)作業対象面積	219㎡		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
				深夜時間:0.0		
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 3.0%	0.030		124,900	3,747	
Y00004	材料費 2.0%	0.020		124,900	2,498	
	合 計				131,145	算出数量 1.000 式
	単 価		式		100,982	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	*** S単 16号 ***					
S65002	近接目視		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	近接目視 点の構造物, 70㎡			時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	制約作業時間: 0.0 冬期補正: なし	
	1) 対象構造物 2) 作業対象面積	点の構造物 70㎡		豪雪補正: なし 基本給時間: 8.0 深夜時間: 0.0	亜熱帯補正: なし 超勤時間: 0.0	
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 3.0%	0.030		124,900	3,747	
Y00004	材料費 2.0%	0.020		124,900	2,498	
	合 計				131,145	算出数量 1.000 式
	単 価		式		89,179	
	*** S単ー 17号 ***					
S65002	近接目視		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	近接目視 線の構造物, 199㎡			時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	制約作業時間: 0.0 冬期補正: なし	
	1) 対象構造物 2) 作業対象面積	線の構造物 199㎡		豪雪補正: なし 基本給時間: 8.0 深夜時間: 0.0	亜熱帯補正: なし 超勤時間: 0.0	
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 3.0%	0.030		124,900	3,747	
Y00004	材料費 2.0%	0.020		124,900	2,498	
	合 計				131,145	算出数量 1.000 式
	単 価		式		107,539	
	*** S単ー 18号 ***					
S65002	近接目視		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	近接目視 線の構造物, 94㎡			時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	制約作業時間: 0.0 冬期補正: なし	
	1) 対象構造物 2) 作業対象面積	線の構造物 94㎡		豪雪補正: なし 基本給時間: 8.0 深夜時間: 0.0	亜熱帯補正: なし 超勤時間: 0.0	
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 3.0%	0.030		124,900	3,747	
Y00004	材料費 2.0%	0.020		124,900	2,498	
	合 計				131,145	算出数量 1.000 式
	単 価		式		98,359	
	*** S単ー 19号 ***					
S65003	コンクリート強度推定調査		測点		1.000 日	歩A 当たり算出
	コンクリート強度推定調査			時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	制約作業時間: 0.0 冬期補正: なし	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	南九州地域施設機能診断調査業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	1)強度推定調査	計上する		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 10.0%	0.100		76,400	7,640	
	合 計				84,040	算出数量 20.000 測点
	単 価		測点		4,202	
	*** S単ー 20号 ***					
S65004	鉄筋調査		箇所		1.000 日	歩A 当たり算出
	鉄筋調査			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)鉄筋調査	計上する		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 30.0%	0.300		76,400	22,920	
	合 計				99,320	算出数量 25.000 箇所
	単 価		箇所		3,973	
	*** S単ー 21号 ***					
S65009	中性化深さ試験(ドリル法)		箇所		1.000 日	歩A 当たり算出
	中性化深さ試験(ドリル法)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)中性化深さ試験(ドリル法)	計上する		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
Y00004	機械経費 10.0%	0.100		88,800	8,880	
Y00004	材料費 5.0%	0.050		88,800	4,440	
	合 計				102,120	算出数量 12.000 断面
	単 価		断面		8,510	
	*** S単ー 22号 ***					
S65402	現地踏査及び診断調査 (用排水ポンプ)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	現地踏査及び診断調査 (用排水ポンプ) 横軸,2台,計上する,計上する			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)ポンプ形式区分	横軸		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)対象施設数	2.000台				
	3)現地踏査	計上する		深夜時間:0.0		
	4)概略診断調査	計上する				
R04004	技師 (A) 外業	3.000	人	59,600	178,800	
R04005	技師 (B) 外業	3.700	人	48,500	179,450	
	合 計				358,250	算出数量 1.000 式
	単 価		式		358,250	

[illegible]

令和6年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
南九州地域施設機能診断調査業務

特 別 仕 様 書

九州農政局南部九州土地改良調査管理事務所

第1章 総 則

第1－1条（適用範囲）

令和6年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業 南九州地域施設機能診断調査業務の施行に当たっては、農林水産省農村振興局制定「設計業務共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）によるほか、同仕様書に対する特記及び追加事項は、この見積要領によるものとする。

第1－2条（目的）

本業務は、国営土地改良事業「曾於南部地区」で造成された施設の機能診断調査を行うと共に、施設の機能を保全するために必要な対策方法等を定めた機能保全計画の策定を行うものである。

第1－3条（場所）

本業務において対象とする施設の場所は、鹿児島県志布志市有明町及び曾於郡大崎町地内で、別添位置図に示すとおりである。

第1－4条（土地への立入り等）

作業実施のための土地の立入り等は、共通仕様書第1－16条によるが、発注者の許可無く土地の踏み荒らし、立木伐採等行った場合に対する補償は、受注者の責任において処理するものとする。

第1－5条（履行確実性評価の達成状況の確認）

本業務の受注にあたり、予算決算及び会計令第85条の基準に基づく価格（以下、「調査基準価格」という。）を下回る価格で受注した場合には、履行確実性評価の審査で提出した追加資料について、業務実施状況を踏まえた実施額に修正し、これを裏付ける資料とともに、業務完了検査時に提出するものとする。その上で、提出された資料をもとに以下の内容について履行確実性評価の達成状況を確認し、その結果を業務成績に反映させるものとする。なお、業務完了検査時まで提出されない場合には以降の提出を受け付けず、業務成績評定に厳格に反映させるものとする。

- （1）審査項目a）～c）において、審査時に比較して正当な理由なく必要額を下回った場合
- （2）審査項目d）において、審査時に比較して正当な理由なく再委託額が下回った場合
- （3）その他、業務計画書等に示された、実施体制、実施手順、工程計画が正当な理由なく異なる等、業務実施体制に関する問題が生じた場合
- （4）業務成果品のミス、不備等

第1－6条（一般事項）

業務請負契約書及び共通仕様書に示す以外の一般事項は、次のとおりである。

- （1）作業実施の順序、方法等は監督職員と密接な連絡を取り、作業の円滑な進捗を図るものとする。

第1－7条（管理技術者）

- （1）管理技術者は、共通仕様書第1－6条第3項によるものとし、農業土木技術管理士、農業水利施設機能総合診断士以外の業務に該当する技術部門・選択科目は次のとおりである。

資 格	技術部門	選択科目
技 術 士	総合技術監理	農業－農業土木 農業－農業農村工学
	農 業	農業土木 農業農村工学
博 士	当該業務に関連する学術部門	
シビルコンサルティングマネージャー	農業土木	

(2) 調査基準価格を下回る価格で契約した場合においては、管理技術者は屋外で行う調査の実施に際して現場に常駐するとともに、作業日毎に業務の内容を監督職員に報告しなければならない。

なお、管理技術者が現場での常駐場所を定めた場合、あるいは変更した場合は監督職員に報告することとする。

第1－8条（担当技術者）

担当技術者は、共通仕様書第1－8条によるものとする。

第1－9条（配置技術者の確認）

共通仕様書第1－11条における業務組織計画の作成及び共通仕様書第1－12条に基づく技術者情報の登録に当たっては、次によるものとする。

- (1) 受注者は、業務計画書の業務組織計画に配置技術者の所属・役職および担当する分担業務を明確に記載するものとする。なお、変更業務計画書において、業務組織計画を変更する際も同様とする。
- (2) 農業農村整備事業測量調査設計業務実績情報サービスへの技術者情報の登録は、業務計画書の業務組織計画において位置付けられた技術者を登録対象とする。

第1－10条（保険加入）

受注者は、共通仕様書第1－37条に示されている保険に加入している旨を業務計画書に明示しなければならない。また、監督職員からの請求があった場合は、保険加入を証明する書類を提示しなければならない。

第2章 作業条件

第2－1条（適用する図書）

本業務の基本的事項に関しては、次に示す図書によるものとする。他の図書を適用する場合は、監督職員の承諾を得るものとする。

番号	名 称	発 行 所	制定(改訂)年月
1	農業水利施設の機能保全の手引き (参考資料編含む)	農林水産省農村振興局	令和5年4月
2	農業水利施設の機能保全の手引き 「パイプライン」		平成28年8月
3	農業水利施設の機能保全の手引き 「ポンプ場（ポンプ設備）」		平成25年4月
4	農業水利施設の機能保全の手引き 「電気設備」		平成25年5月
5	農業水利施設の機能保全の手引き 「開水路」		平成28年8月
6	農業水利施設の長寿命化のための手引き		平成27年11月

第2－2条（作業条件）

本業務の実施に当たっては、以下の事項に留意して作業を進めるものとする。

- (1) 作業の実施に当たっては、事前に作業方法及び具体的な工程計画を立案し、監督職員及び監督職員が指示する者と十分打合せを行い手戻りのないよう留意しなければならない。
- (2) 本業務において生じた第三者との紛争で受注者の責に帰する事項は、受注者の責任において処理しなければならない。

- (3) 現地踏査に伴い施設内に立入る場合、監督職員と打合せを行い施設管理者と調整を実施するものとする。
- (4) 管水路（パイプライン）は充水状態を想定している。現地調査を行う上で支障となる事態が発生した場合は監督職員と協議するものとする。
- (5) 現地調査の結果、仮設等が必要となった場合は監督職員と協議するものとする。
- (6) 作業上、支障となる状態が発生した場合は、監督職員と協議するものとする。
- (7) 水管橋調査における塗膜厚調査に当たっては、計測可能な場所を実施するものとし、計測位置及び仮設等が必要な場合については、監督職員と協議するものとする。

第2－3条（対象施設）

本業務の対象となる施設等詳細は別紙－1【業務対象施設一覧表】による。

第2－4条（参考図書）

本業務の参考にする図書は、共通仕様書第2－1条によるほか次表によるものとする。

番号	図書・資料名称	発行所	制定(発行)年月
1	コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 -2022-	(公社) 日本コンクリート工学会	令和4年6月
2	コンクリート診断技術 '25		令和7年3月
3	コンクリート標準示方書（設計編）	(公社) 土木学会	令和5年3月
4	コンクリート標準示方書（施工編）		令和5年9月
5	コンクリート標準示方書（維持管理編）		令和5年3月
6	農業水利施設のコンクリート構造物調査・評価・対策工法選定マニュアル	(一社) 農業土木事業協会	平成19年3月
7	農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル【パイプライン編】(案)	農林水産省農村振興局	平成29年4月
8	農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル【開水路編】		令和5年3月
9	農業水利施設の機能保全に関する調査計画の参考資料(計画編・調査編)(案)		平成30年3月

第2－5条（貸与資料）

貸与資料は、次のとおりである。

分類	貸与資料	数量
現況関係資料	土地改良施設整理台帳付属図面	1式
	曾於南部地区事業誌、事業成績書等	1式
機能診断	平成27年度 広域基盤整備計画調査 大隅地域広域基盤整備計画検討業務 報告書	1式
	令和元年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業 曾於南部地区施設機能診断調査業務 報告書	1式

また、上記以外に必要な資料がある場合は監督職員と協議するものとする。

第2-6条（参考図書及び貸与資料の取扱い）

第2-4条、第2-5条に示す参考図書及び貸与資料の取扱いは次のとおりとする。

- （1）参考図書及び貸与資料の記載事項に相互に矛盾がある場合、又は解釈に疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。
- （2）参考図書は、施設機能診断作業時点の最新版を用いることとし、改訂された場合は、監督職員と協議するものとする。
- （3）貸与資料は、原則として初回打合せ時に一括貸与するものとし、監督職員の請求があった場合のほか完了検査時に一括返納しなければならない。

第3章 設計作業内容

第3-1条（作業項目及び数量）

本業務における作業項目及び数量は、次の作業項目表のとおりである。

なお、詳細は別紙-2【機能診断作業項目内訳表】、別紙-3【現地調査作業項目内訳表】及び別紙-4【現地調査作業一覧表】に示すものとする。

作業項目表

作 業 項 目	数 量	備 考
機能診断作業	1 式	
現地調査作業	1 式	

第3-2条（現地作業内容）

現地調査の詳細は次のとおりである。なお、詳細数量については、別紙-1【業務対象施設一覧】による。また、作業は施設管理者と調整の上で行う。

（1）現地踏査

事前調査で得られた情報を参考に、遠隔目視により変状の有無や変状箇所の特定を行い、踏査結果を整理する。踏査結果を踏まえ、現地調査（定点調査）を行う調査地点、調査項目等を選定、検討する。

（2）現地調査（定点調査）

現地調査（定点調査）計画に基づき、近接目視と定量計測を行う。

- （3）これらの調査結果は、農業水利ストック情報データベースの登録情報データ外部入出力機能（施設機械の一次診断結果に当たっては一次診断情報入力用 Excel ファイル）を利用して記録するものとし、記録した電子データは成果物に含むものとする。

第3-3条（作業の留意点）

業務の実施に当たって、特に留意する点は次のとおりとする。

- （1）中性化深さ調査（ドリル法）を行う際は構造物への影響が最小限となるよう配慮するとともに、監督職員と詳細な位置について打合せのうえ決定するものとする。
なお、削孔後は既存施設の機能を損なわないよう無収縮モルタル等により復旧を行うものとする。
- （2）現地調査において、著しく機能が低下している施設を発見した場合は、遅滞なく監督職員へ報告するものとする。
- （3）現地踏査等施設の状況確認においては、できる限り施設管理者の同行により意見・助言を受けて実施するものとする。
- （4）定点調査（近接目視、コンクリート強度推定調査、鉄筋探査及び中性化深さ調査）の調査箇所は、現地踏査等の結果を踏まえ、監督職員と協議して決定することとする。
- （5）機能保全対策の検討に当たっては、当該施設が必要な機能及び安全で所要の耐久性を有するとともに維持管理、施工性及び経済性について考慮しなければならない。

- (6) 電算機を使用する場合は、計算手法及びアウトプット等の様式について事前に監督職員の承諾を得るものとする。
- (7) 第2－4条、第2－5条及び共通仕様書に示す参考図書、貸与資料や受注者が有する資料等を参考にした場合は、その出典を明示するものとする。
- (8) 機能保全対策シナリオの検討に当たっては、最新の新素材、新工法などの技術情報の収集に努めた上で、比較検討を行う。新技術や新工法等の選定に当たっては、農業農村整備民間技術情報データベース (NNTD)、農業水利施設保全補修ガイドブック 2024 ((一社) 農業土木事業協会発行) 及び新技術情報システム (NETIS) 等を積極的に活用しなければならない。
- ・ 農業農村整備民間技術情報データベース (NNTD) については、
<https://www.nn-techinfo.jp> を参照。
 - ・ 農業水利施設保全補修ガイドブック 2024 については、
<https://www.jagree.or.jp/publication/books/no9/> を参照。
 - ・ 新技術情報システム (NETIS) については、
<https://www.netis.mlit.go.jp/NETIS> を参照。
- (9) 対象施設、関連施設及び設備が機能診断を完了している場合は、同成果の内容を確認するとともに十分に活用し効率的な作業を行う。
- (10) 対策内容の検討に当たっては、事業への適用性や施設管理者の管理体制等を総合的に検討する。
- (11) 数量計算に当たっては、「工事工種の体系化」に基づき作成するものとする。なお、「工事工種の体系化」に該当しない工種や用語については、監督職員と協議するものとする。
- ・ 「工事工種の体系化」は、https://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/kouzi_kousyu/ を参照。
- (12) 農業水利ストック情報データの作成は、機能診断情報記入用 Excel ファイルによる入力のほか、登録情報データ外部入出力機能等を適宜使用することを基本とするが、作業方法、内容等について監督職員と十分協議し作業を行うものとする。なお、作成した電子データは成果物に含むものとする。

第3－4条（業務写真における黑板情報の電子化）

黑板情報の電子化は、被写体画像の撮影と同時に業務写真における黑板の記載情報の電子的記入を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化を図るものである。

受注者は、業務契約後に監督職員の承諾を得たうえで黑板情報の電子化を行うことができる。黑板情報の電子化を行う場合、受注者は、以下の（1）から（4）によりこれを実施するものとする。

（1）使用する機器・ソフトウェア

受注者は、黑板情報の電子化に必要な機器・ソフトウェア等（以下、「機器等」という。）は、電子的記入ができるもので、かつ「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト (CRYPTREC 暗号リスト)」（URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」）に記載する基準を用いた信憑性確認機能（改ざん検知機能）を有するものを使用するものとする。

（2）機器等の導入

ア 黑板情報の電子化に必要な機器等は、受注者が準備するものとする。

イ 受注者は、黑板情報の電子化に必要な機器等を選定し、監督職員の承諾を得なければならない。

（3）黑板情報の電子的記入に関する取扱い

ア 受注者は、（1）の機器等を用いて業務写真を撮影する場合は、被写体と黑板情報を電子画像として同時に記録してもよいこととする。

イ 本業務の業務写真の取扱いは、「電子化写真データの作成要領（案）」によるものとする。

なお、上記アに示す黑板情報の電子的記入については、「電子化写真データの作成要領（案）6 写真編集等」に示す「写真編集」には該当しないものとする。

ウ 黑板情報の電子化を適用する場合は、従来型の黑板を写し込んだ写真を撮影する必要はない。

(4) 写真の納品

受注者は、(3)に示す黒板情報の電子化を行った写真を、業務完了時に発注者へ納品するものとする。

なお、受注者は納品時に URL(https://dcpadv.jcomsia.org/photofinder/pac_auth.php)のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアを用いて、黒板情報を電子化した写真の信憑性確認を行い、その結果を監督職員へ提出するものとする。

(5) 費用

機器等の導入に要する費用は、従来の黒板に代わるものであり、直接経費に含まれる。

第4章 打合せ

第4-1条（打合せ）

共通仕様書第1-10条による打合せについては、主として次の段階で行うものとする。

また、初回及び最終回の打ち合わせには管理技術者が出席するものとする。

初 回 作業着手の段階

第2回 中間打合せ（現地調査（定点調査）計画作成前の段階）

第3回 中間打合せ（健全度評価の段階）

第4回 中間打合せ（機能保全計画策定の段階）

最終回 報告書原稿作成段階

なお、業務を適正かつ円滑に実施するために、受注者の業務担当は、業務打合せ記録簿を作成し、上記の打合せの都度内容について、監督職員と相互に確認するものとする。

ただし、調査基準価格を下回る価格で契約した場合においては、上記に定める打合せを含め、受注者の責により管理技術者の立会いの上で打合せ等を行うこととし、設計変更の対象とはしない。

その際、管理技術者は共通仕様書第1-11条に定める業務計画書に基づく業務工程等の管理状況を報告しなければならない。

第5章 成果物

第5-1条（成果物）

成果物を共通仕様書第1章第1-17条に基づき作成し、次のものを提出しなければならない。

(1) 成果物の電子媒体（CD-R 若しくは DVD-R）正副2部

(2) 成果物の出力1部（黒表紙※、金文字入り）※JIS Z8102:2001に規定する色№269

なお、報告書には本業務の要約版を掲載するものとし、その内容については、別途監督職員の指示によるものとする。

第5-2条（成果物）

成果物の提出先は、次のとおりとする。

宮崎県都城市志比田町 4778-1

九州農政局 南部九州土地改良調査管理事務所

第6章 契約変更

第6-1条（契約変更）

業務請負契約書第17条から第20条に規定する発注者と受注者による協議事項は、次のとおりとする。

(1) 第2-2条に示す「作業条件」に変更が生じた場合

- (2) 第2－3条に示す「対象施設」に変更が生じた場合
- (3) 第3－1条に示す「作業項目及び数量」に変更が生じた場合
- (4) 第4－1条に示す「打合せ」に変更が生じた場合
- (5) 第5－1条に示す「成果物」に変更が生じた場合
- (6) 履行期間に変更が生じた場合
- (7) 関係機関等対外的協議等により業務計画等に変更が生じた場合
- (8) その他

第7章 定めなき事項

第7－1条（定めなき事項）

この特別仕様書に定めなき事項又はこの業務の実施に当たり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督職員と協議するものとする。

【業務対象施設一覧表】

施設名称・対象構造物	構造物の規格等	単位	数量	備考
1. 揚水機場				
(1) 原別府揚水機場				
建屋	鉄筋コンクリート 地下1階、地上1階 地上部(電気室) : L(14.70), W(5.40), H(3.00) 地下部(ポンプ室) : L(14.70), W(5.40), H(4.65) 天井クレーン : 手動式チェンブロック形 (1.0 t)	式	1	
ポンプ設備	横軸両吸込単段渦巻ポンプ φ 200 (主ポンプ) 全揚程 : 74m、計画吐出量 : 4.0m ³ /min/台	台	2	
	横軸片吸込多段渦巻ポンプ φ 50 (保圧ポンプ) 全揚程 : 74m、計画吐出量 : 0.2m ³ /min/台	台	2	今回対象外
電気設備	機器総数 : 41個	式	1	
(2) 永吉原揚水機場				
建屋	鉄筋コンクリート L(6.30), W(5.30), H(3.00) 天井クレーン : 手動式チェンブロック形 (0.5 t)	式	1	
ポンプ設備	横軸片吸込単段渦巻ポンプ φ 125 (主ポンプ) 全揚程 : 19m、計画吐出量 : 3.0m ³ /min/台	台	2	
電気設備	機器総数 : 34個	式	1	
2. パイプライン				
(1) 野方支線水路				
管水路工	DCIP管 : φ 600 L=0.524km DCIP管 : φ 500 L=1.688km DCIP管 : φ 450 L=0.709km DCIP管 : φ 300 L=0.518km VP管 : φ 350 L=1.665km	km	5.104	
吸水槽	吸水槽 : L(8.00), W(4.80), H(5.70)	箇所	1	
	フーデッドディスクバルブ : φ 200 (0.59MPa)	基	1	
空気弁工	RC造 : 1箇所 (制水弁室内) 組立マンホールタイプ : 13箇所 空気弁 : φ 25～φ 75	箇所	14	4号空気弁は2号制水弁室内にある。
制水弁工	RC造 : 2箇所 組立マンホールタイプ : 3箇所 制水弁 : φ 300～φ 600	箇所	5	1号制水弁はφ 600電動バタフライ弁 2号制水弁はφ 500手動バタフライ弁
排泥弁工	組立マンホールタイプ : 5箇所 仕切弁 : φ 100～φ 200	箇所	5	
分水工	組立マンホールタイプ : 3箇所 仕切弁 : φ 200～φ 300	箇所	3	

【業務対象施設一覧表】

施設名称・対象構造物	構造物の規格等	単位	数量	備考
(2) 草野支線水路				
管水路工	DCIP管：φ 400 L=2.370km DCIP管：φ 350 L=1.651km DCIP管：φ 250 L=0.008km 鋼管：φ 400 L=0.012km 鋼管：φ 350 L=0.015km	km	4.056	水管橋含む(1箇所)
空気弁工	RC造：2箇所（2箇所制水弁室内） 組立マンホールタイプ：4箇所 空気弁：φ 75	箇所	6	
制水弁工	組立マンホールタイプ：1箇所 制水弁：φ 350～φ 400	箇所	1	
排泥弁工	組立マンホールタイプ：1箇所 仕切弁：φ 150	箇所	1	
減圧水槽	RC造：1箇所 減圧弁：主弁φ 250、副弁φ 100	箇所	1	
田原川水管橋	草野幹線水路 SPφ 800A L=16.100m 草野支線水路 SPφ 400A L=16.100m 沢津峰支線水路 SPφ 450A L=16.100m	箇所	1	3連配管

【機能診断作業項目内訳表】土木構造物【ポンプ場】(建屋)

(1/4)

作業項目	作業内容	備考
1. 業務準備	調査対象施設の周辺の地形、現況、諸施設について調査し、業務実施計画書策定のために必要な現地調査を行う。	
2. 事前調査 2-1 資料調査	施設完成時の設計図書及び施設管理記録、地域特性に係る資料等を収集・整理し診断評価の基礎材料とする。 なお、資料収集に際しては農業水利ストック情報データベースを活用し、設備の経歴、使用環境、地域特性等の情報を収集、整理する。	
2-2 問診調査	施設管理者等から日常利用、操作等の不具合・変状箇所・事故履歴・補修履歴等について聞き取り調査を行い、施設機能に関する課題、問題点を把握・整理する。	
3. 施設機能の検討	資料調査及び問診調査を基に、安全性、水利的な機能及び環境面からの要求機能について整理し、診断の重点を設定するほか、要求機能を満足するための要求性能を設定する。	
4. 施設の影響度評価	事前調査、現地踏査結果を基に、施設が機能停止した場合の影響度を評価する。	
5. 性能低下要因の推定	事前調査及び現地踏査結果を基に、主な性能低下の推定を行う。また、環境（水質又は周辺環境）条件による性能低下の可能性があるか推定する。	
6. 現地調査（定点調査）計画の作成	事前調査、現地踏査及び施設が機能停止した場合の影響度等を勘案し、現地調査（定点調査）の範囲・調査地点の密度及び調査手法を選定する。	
7. 健全度評価	調査結果に基づき、調査単位毎に施設の健全度の判定を行う。	
8. 性能低下予測	性能低下要因推定結果、健全度判定結果等を踏まえ、現況施設の性能判定を行うとともに、性能管理指標を選定し、現地条件に適合する性能低下予測手法により、性能低下予測を行う。	
9. 管理水準の設定	性能低下予測の結果を基に、構造の安全率、施設が機能停止した場合の影響度及び経済性を踏まえ、各施設の管理水準を設定する。	
10. 機能保全対策の検討	施設別に現地状況に適合する対策工法を複数選定し、選定された対策工法・実施時期・実施範囲を組み合わせる対策シナリオを複数作成する。	
11. 機能保全コストの算定	対策シナリオ毎に機能保全コストを算定し、比較する。（コスト算定のために必要な数量計算、設計図面作成を含む。）	
12. 機能保全計画の策定	機能保全コストを最小とすることを基本とした上で、施設影響度を踏まえたリスクや、環境との調和、維持管理の容易さ等、多様な側面も総合的に検討し、機能保全計画を策定する。なお、状況監視等を継続する必要があると認められる施設については、経年変化状況把握などのための施設監視計画を作成する。また、作成にあたっては、「農業水利施設の機能保全の手引き（参考資料編）4. 施設監視計画に基づく施設監視の実施手法」によるものとする。	
13. 農業水利ストック情報データの入力及び登録	上記の作業において作成した資料により農業水利ストック情報データベースの入力及び登録を行う。	
14. 点検取りまとめ	各作業項目の成果物の点検、取りまとめ及び報告書の作成を行う。	

【機能診断作業項目内訳表】施設機械（ポンプ設備）

(2 / 4)

作業項目	作業内容	備考
1. 事前調査	設備の状況や問題点等を把握するために、関係機関から事前に既存資料収集や聞き取り調査等を行う。これにより、現地での機能診断項目を決定し、健全度評価や劣化対策等に必要となる情報を収集・整理する。 なお、資料収集に際しては農業水利ストック情報データベースを活用し、設備の経歴、使用環境、地域特性等の情報を収集、整理する。	
2. 概略診断評価 (健全度評価)	概略診断調査結果から、ポンプ設備における健全度ランクの区分に基づき、設備・装置・部位の性能低下状態やその要因を把握し、健全度を総合的に判定する。	
3. 機能保全対策の検討 3-1 性能低下予測	設備を構成する装置・部位毎に対策が必要となる時期や方法を比較検討するとともに、設備全体としての対策実施の要否、その時期を明らかにすることを目的として実施する。劣化特性や劣化予測の把握の可否を十分に踏まえて将来予測（余寿命予測）を行う。	
3-2 機能保全対策の検討	機能診断評価結果を踏まえ、当面必要となる機能保全対策を検討する。劣化傾向等を予測し、将来的な劣化対策を検討を行う。	
3-3 対策実施シナリオの作成	今後必要となる対策の時期、内容等を予測して、機能保全コストを算出するため対策範囲・工法とその実施時期の組み合わせを検討する。なお、検討に当たっては、土木構造物の保全対策時期等との調和を図り、信頼性、管理制約条件、社会的情勢等を勘案し総合的に検討する。	
3-4 機能保全コストの算定	各種診断結果による機能保全コストとして、①当面の整備にかかる費用、②今後の更新等に必要となる費用（想定）、③定期点検に必要な費用を合算し算定する。	
3-5 機能保全計画の策定	施設機能の維持、対策実施の合理性、設備重要度との適合性、維持管理の容易さ等を総合的に勘案し機能保全計画を策定する。	
4. 農業水利ストック情報データの入力及び登録	上記の作業において作成した資料により農業水利ストック情報データベースの入力及び登録を行う。	
5. 点検取りまとめ	各作業項目の成果物の点検、取りまとめ及び報告書の作成を行う。	

【機能診断作業項目内訳表】施設機械（電気設備）

(3／4)

作業項目	作業内容	備考
1. 事前調査	設備の状況や問題点等を把握するために、関係機関から事前に既存資料収集や聞き取り調査等を行う。これにより、現地での機能診断項目を決定し、健全度評価や劣化対策等に必要となる情報を収集・整理する。 なお、資料収集に際しては農業水利ストック情報データベースを活用し、設備の経歴、使用環境、地域特性等の情報を収集、整理する。	
2. 概略診断評価 (健全度評価)	概略診断調査結果から、電気設備における健全度ランクの区分に基づき、設備・配電盤・構成機器の性能低下状態やその要因を把握し、健全度を総合的に判定する。	
3. 機能保全対策の検討 3-1 性能低下予測	設備を構成する装置・部位毎に対策が必要となる時期や方法を比較検討するとともに設備全体としての対策実施の要否、その時期を明らかにすることを目的として実施する。劣化特性や劣化予測の把握の可否を十分に踏まえて将来予測（余寿命予測）を行う。	
3-2 機能保全対策の検討	概略診断調査評価結果を踏まえ、当面必要となる機能保全対策の検討や、劣化傾向等を把握し、将来的な対策検討を行う。	
3-3 対策実施シナリオの作成	今後必要となる対策の時期、内容等を予測して、機能保全コストを算出するために対策範囲・工法とその実施時期の組み合わせを検討する。なお、検討に当たっては、負荷設備、地区内の他施設の電気設備及び水管理制御設備等の関連設備の保全対策時期等との調和を図り、信頼性、管理制約条件、社会的情勢等を勘案し総合的に検討する。	
3-4 機能保全コストの算定	各種診断結果による機能保全コストとして、①当面の整備にかかる費用、②今後の更新等に必要となる費用（想定）、③定期点検に必要な費用を合算し算定する。	
3-5 機能保全計画の策定	施設機能の維持、対策実施の合理性、設備重要度との適合性、維持管理の容易さ等を総合的に勘案し機能保全計画を策定する。	
4. 農業水利ストック情報 データの入力及び登録	上記の作業において作成した資料により農業水利ストック情報データベースの入力及び登録を行う。	
5. 点検取りまとめ	各作業項目の成果物の点検、取りまとめ及び報告書の作成を行う。	

【機能診断作業項目内訳表】土木構造物（パイプライン）

(4/4)

作業項目	作業内容	備考
1. 業務準備	調査対象施設の周辺の地形、現況、諸施設について調査し、業務実施計画書策定のために必要な現地調査を行う。	
2. 事前調査 2-1 資料調査	施設完成時の設計図書及び施設管理記録、地域特性に係る資料等を収集・整理し診断評価の基礎材料とする。 なお、資料収集に際しては農業水利ストック情報データベースを活用し、設備の経歴、使用環境、地域特性等の情報を収集、整理する。	
2-2 問診調査	施設管理者等から日常利用、操作等の不具合・変状箇所・事故履歴・補修履歴等について聞き取り調査を行い、施設機能に関する課題、問題点を把握・整理する。	
3. 施設機能の検討	資料調査及び問診調査を基に、安全性、水利的な機能及び環境面からの要求機能について整理し、診断の重点を設定するほか、要求機能を満足するための要求性能を設定する。	
4. 施設の影響度評価	事前調査、現地踏査結果を基に、施設が機能停止した場合の影響度を評価する。	
5. 性能低下要因の推定	事前調査及び現地踏査結果を基に、主な性能低下の推定を行う。また、環境（水質又は周辺環境）条件による性能低下の可能性があるか推定する。	
6. 現地調査（定点調査）計画の作成	事前調査、現地踏査及び施設が機能停止した場合の影響度等を勘案し、現地調査（定点調査）の範囲・調査地点の密度及び調査手法を選定する。	
7. 概略診断評価 【バルブ類】	概略診断調査の結果により、部位毎及び設備全体の健全度評価を行い、詳細診断調査の必要性を判断する。	
8. 健全度評価 8-1 水管橋	調査結果に基づき、部位毎及び水管橋部の健全度判定を行う。	
8-2 パイプライン	調査結果に基づき、調査単位毎にパイプライン施設の健全度判定を行う。	
9. 性能低下予測	性能低下要因推定結果、健全度判定結果等を踏まえ、現況施設の性能判定を行うとともに、性能管理指標を選定し、現地条件に適合する性能低下予測手法により、性能低下予測を行う。	
10. 管理水準の設定	性能低下予測の結果を基に、構造の安全率、施設が機能停止した場合の影響度及び経済性を踏まえ、各施設の管理水準を設定する。	
11. 機能保全対策の検討	施設別に現地状況に適合する対策工法を複数選定し、選定された対策工法・実施時期・実施範囲を組み合わせる対策シナリオを複数作成する。	
12. 機能保全コストの算定	対策シナリオ毎に機能保全コストを算定し、比較する。（コスト算定のために必要な数量計算、設計図面作成を含む。）	
13. 機能保全計画の策定	機能保全コストを最小とすることを基本とした上で、施設影響度を踏まえたリスクや、環境との調和、維持管理の容易さ等、多様な側面も総合的に検討し、機能保全計画を策定する。なお、状況監視等を継続する必要があると認められる施設については、経年変化状況把握などのための施設監視計画を作成する。また、作成にあたっては、「農業水利施設の機能保全の手引き（参考資料編）4. 施設監視計画に基づく施設監視の実施手法」によるものとする。	
14. 農業水利ストック情報データの入力及び登録	上記の作業において作成した資料により農業水利ストック情報データベースの入力及び登録を行う。	
15. 点検取りまとめ	各作業項目の成果物の点検、取りまとめ及び報告書の作成を行う。	

【現地調査作業項目内訳表】土木構造物【ポンプ場】(建屋)

(1 / 2)

作業項目	作業内容	備考
1. 現地踏査	事前調査で得られた情報を参考に、遠隔目視により変状の有無や変状箇所の特定を行い、踏査結果を整理する。踏査結果を踏まえ、現地調査（定点調査）を行う調査地点、調査項目等を選定、検討する。	
2. 定点調査 2-1 近接目視（点的） 【建屋】	目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、変状等を定量的に把握（ひび割れ・欠損・変形等計測、周辺観察等を含む）するとともに、スケッチを作成する。	
2-2 コンクリート強度推定調査	リバウンドハンマーによりコンクリート表面を打撃し、反発度を測定することで強度を推定する。	
2-3 鉄筋探査	中性化深さ調査（ドリル法）の調査位置の特定のため、鉄筋探査器により鉄筋位置・かぶりの探査を行う。	
2-4 中性化深さ調査（ドリル法）	コンクリートドリルにより削孔し、その削粉を用いて中性化深さを測定する。（NDIS 3419）	

【現地調査作業項目内訳表】施設機械（ポンプ設備）

作業項目	作業内容	備考
1. 現地踏査	現地調査の実施手順を決定するために、事前調査で得られた情報をもとに設備を踏査することで、現地調査に伴う仮設の必要性等の現場条件、劣化箇所の位置や劣化の内容、程度など必要な事項について概略を把握し、現地調査箇所の調査項目、調査方法を決定する。	
2. 概略診断調査	事前調査、現地踏査により得られた情報をもとに、目視、触覚、聴覚等人間の五感による判断と付属計器類の指示値、簡易計測器の測定値、日常・定期点検記録や整備・補修記録及び操作記録等から設備の状態、機能を確認する。	

【現地調査作業項目内訳表】施設機械（電気設備）

作業項目	作業内容	備考
1. 現地踏査	現地調査の実施手順を決定するために、事前調査で得られた情報をもとに設備を踏査することで、現地調査に伴う仮設の必要性等の現場条件、劣化箇所の位置や劣化の内容、程度など必要な事項について概略を把握し、現地調査箇所の調査項目、調査方法を決定する。	
2. 概略診断調査	事前調査、現地踏査により得られた情報をもとに、定期保全記録の確認、現地調査（目視）、修理・交換の必要な機器及び部品の確認、参考耐用年数を超過した機器の確認を行う。	

【現地調査作業項目内訳表】土木構造物（パイプライン）

(2 / 2)

作業項目	作業内容	備考
1. 現地踏査	事前調査で得られた情報を参考に、遠隔目視により変状の有無や変状箇所の特定を行い、踏査結果を整理する。踏査結果を踏まえ、現地調査（定点調査）を行う調査地点、調査項目等を選定、検討する。（水管橋含む）	
2. 概略診断調査 【バルブ類】	事前調査、現地踏査により得られた情報を基に、目視、触覚、聴覚等の五感による判断等から設備の状態、機能を確認する。（バルブ類）	
3. 水管橋調査	目視や塗膜厚の計測等の調査を行い、変状等を定量的に把握（塗装の劣化・たわみ・接続部及び支承部の変状、周辺観察等を含む）し、設備の状態を確認する。	
4. 近接目視（定点） 【弁室】	目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、変状等を定量的に把握（ひび割れ・欠損・変形等計測、周辺観察等を含む）するとともに、スケッチを作成する。	
5. コンクリート強度推定調査	リバウンドハンマーによりコンクリート表面を打撃し、反発度を測定することで強度を推定する。	
6. 鉄筋探査	中性化深さ調査（ドリル法）の調査位置の特定のため、鉄筋探査器により鉄筋位置・かぶりの探査を行う。	
7. 中性化深さ調査 （ドリル法）	コンクリートドリルにより削孔し、その削粉を用いて中性化深さを測定する。（NDIS 3419）	

【現地調査作業一覧表】

作業項目	規格	単位	数量	備考
1. 揚水機場				
(1) 原別府揚水機場	計画吐出量 $Q=4.0\text{m}^3/\text{min}/\text{台}$			
1) 現地踏査		式	1.0	
2) 概略診断調査				
ポンプ設備	横軸両吸込単段渦巻ポンプ: $\phi 200$	台	2.0	
電気設備	機器総数 : 41個	式	1.0	
3) 定点調査	コンクリート構造物			
近視目視(点的)	建屋内壁	m^2	219.0	建屋の内面壁対象
コンクリート強度推定調査	JISA115(リバウンドハンマー) 1箇所当たり打撃点 $3*3=9$ 点(5cm間隔)	箇所	4.0	〃
鉄筋探査		箇所	4.0	〃
中性化深さ調査	NDIS3419-1999 フェノールフタレイン溶液 1箇所当たり3孔	箇所	4.0	〃
(2) 永吉原揚水機場	計画吐出量 $Q=3.0\text{m}^3/\text{min}/\text{台}$			
1) 現地踏査		式	1.0	
2) 概略診断調査				
ポンプ設備	横軸片吸込単段渦巻ポンプ $\phi 125$	台	2.0	
電気設備	機器総数 : 34個	式	1.0	
3) 定点調査	コンクリート構造物			
近視目視(点的)	建屋内壁	m^2	70.0	建屋の内面壁対象
コンクリート強度推定調査	JISA115(リバウンドハンマー) 1箇所当たり打撃点 $3*3=9$ 点(5cm間隔)	箇所	4.0	〃
鉄筋探査		箇所	4.0	〃
中性化深さ調査	NDIS3419-1999 フェノールフタレイン溶液 1箇所当たり3孔	箇所	4.0	〃
2. パイプライン				
(1) 野方支線水路	DCIP管: $\phi 300\sim\phi 600$ VP管: $\phi 300$			土木構造物
(土木構造物)				
1) 現地踏査		km	5.104	
2) 概略診断調査	バルブ類	箇所	28.0	・制水弁工: 5 箇所 (RC造 1 箇所、組立マンホールタイプ 3 箇所、1 箇所は他の施設と併用) ・空気弁工: 14箇所 (組立マンホールタイプ 13箇所、1 箇所は他の施設と併用) ・排泥弁工: 5 箇所(組立マンホールタイプ) ・分土工: 3 箇所(組立マンホールタイプ) ・ディスクバルブ: 1 箇所 (RC造)
3) 近接目視(定点)	弁室	m^2	199.0	3箇所
4) コンクリート強度推定調査	JISA115(リバウンドハンマー) 1箇所当たり打撃点 $3*3=9$ 点(5cm間隔)	箇所	6.0	2号制水弁室、流用計室、吸水槽のRC造: 3箇所 (3箇所×内面壁(2面)=6箇所) RC造の空気弁と制水弁は一体構造
5) 鉄筋探査		箇所	6.0	
6) 中性化深さ調査	NDIS3419-1999 フェノールフタレイン溶液 1箇所当たり3孔	箇所	6.0	

【現地調査作業一覧表】

作業項目	規格	単位	数量	備考
(2) 草野支線水路	DCIP管：φ 250～φ 400 鋼管：φ 350～φ 400			土木構造物
(土木構造物)				
1) 現地踏査		km	4.056	水管橋含む(1箇所)
2) 概略診断調査	バルブ類	箇所	9.0	・ 制水弁工：3 箇所 (組立マンホールタイプ 1 箇所、2 箇所の施設は草野幹線水路で診断済み) ・ 空気弁工：9 箇所 (組立マンホールタイプ 4 箇所、3 箇所の施設は草野幹線水路で診断済み) ・ 排泥弁工：4 箇所 (組立マンホールタイプ 1 箇所、3 箇所の施設は草野幹線水路で診断済み) ・ 減圧弁：1 箇所 (RC造)
3) 水管橋調査	目視、塗膜厚等調査	箇所	1.0	塗膜厚計測は3箇所 (上・中・下流部)
4) 近接目視(定点)	弁室	m ²	94.0	1箇所
5) コンクリート強度推定調査	JISA115(リバウンドハンマー) 1箇所当たり打撃点3*3=9点(5cm間隔)	箇所	2.0	減圧弁室のRC造：1箇所
6) 鉄筋探査		箇所	2.0	(1箇所×内面壁(2面)=2箇所) 制水弁・空気弁・排泥工のRC造(弁室)、草野幹線水路で実施済
7) 中性化深さ調査	NDIS3419-1999 フェノールフタレイン溶液 1箇所当たり3孔	箇所	2.0	

令和6年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
南九州地域施設機能診断調査業務

図面目録

図面番号	図 面 名 称	枚数	備考
1	位置図	1	
計		1	

令和6年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
南九州地域施設機能診断調査業務
位置図



凡例

実施済み

対象施設

未実施

業務名	令和6年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業 南九州地域施設機能診断調査業務		
図面名	位 置 図		
年月日	年 月 日		
縮尺	図面番号	1	
会社名	南部九州土地改良調査管理事務所		
事業者名			